

平成18年度 第2次試験 【事例】

与件を活用した解答例

第1問(配点30点)

(a)	売上高対営業利益率	(b)	-0.21%
(c)	問題点は、収益性が低下している点であり、その原因は非効率な人員配置と仕入れにより給与手当と商品廃棄損が増加したためである。		
(a)	商品回転率	(b)	17.23%
(c)	問題点は資産効率が低下している点であり、その原因は顧客層の違いを無視した画一的な品揃えにより在庫が過剰となったためである。		
(a)	当座比率	(b)	61.70%
(c)	問題点は短期支払能力が低い点であり、その原因は大手コンビニエンスストアの進出により営業赤字となり現金が減少したためである。		

第2問(配点20点)

(設問1)

(a)	-11百万円
(b)	9百万円
(c)	1百万円

(設問2)

キャッシュフローはマイナスの状況である。
営業活動でキャッシュを生めず備品の売却や短期借入金でも賄いきれなかったためである。

第3問(配点20点)

(設問1)

	(a)	(b)
	26.67%	-1.57%
	33.65%	11.11%
	34.18%	22.78%

(設問2)

個別固定費控除後の貢献利益率や売上高構成比といった点に着目し、採算性の高い店舗タイプに集中するよう結論を出すべきである。
--

第4問(配点15点)

ロードサイド店舗を2店舗増加させ、住宅街店舗を1店舗増加させることが得られるキャッシュフローが最も大きくなり、最適である。

第5問(配点15点)

(設問1)

発注と売上情報の連動による在庫把握にPOSシステムを活用し、一般社員が売れた分のみ発注することで仕入・在庫管理を改善する。

(設問2)

店舗別の売れ筋商品分析にPOSシステムを活用し、店長が顧客層の違いに応じた品揃えをすることで効果的な商品の入れ替えを行う。
